

宮崎県出身の瑛九（本名：杉田秀夫）は、生涯を通じて常に新しい表現を求め、写真や版画、油彩など様々な技法に取り組みました。また、画業以外にも文筆活動や、美術団体の結成、エスプレントの普及といった活動など、多方面で活躍しました。

表現活動に情熱を燃やし、短くも濃密であった生涯の中で、瑛九はミヤ子夫人をはじめとする家族との深い絆や、多くの作家たちとの交流がありました。そしてその姿は、多くの人々の言葉により様々な記録や評伝の中に残されています。

ここでは、油彩やフォト・デッサンなどの作品、写真や書籍などの資料とともに、様々な視点で語られる瑛九像を紹介します。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	玉井 瑞夫	1923～2014	「メガネと瑛九と」	1952(昭和27)	32.2×25.0	写真
2	瑛九	1911～1960	宮崎郊外	1943(昭和18)	72.5×90.8	油彩
3	瑛九	1911～1960	兄	1943(昭和18)	23.3×28.4	油彩
4	瑛九	1911～1960	君姉像	1941(昭和16)	32.8×23.9	油彩
5	瑛九	1911～1960	妹の像	1935(昭和10)	72.7×60.8	油彩
6	瑛九	1911～1960	読書	1948(昭和23)	45.3×37.8	油彩
7	瑛九	1911～1960	赤衣	1948(昭和23)	33.5×24.4	油彩
8	山田 光春	1912～1981	題不明	1960(昭和35)	24.5×33.6	油彩
9	オノサト・トシノブ	1912～1986	2ツト4ツノ丸	1955(昭和30)	33.9×24.5	油彩
10	泉 茂	1922～1995	作品(蝶)	1959(昭和34)	33.3×45.3	油彩
11	瑛九	1911～1960	作品	1957(昭和32)頃	22.2×16.1	油彩
12	瑛九	1911～1960	時計の顔	1954(昭和29)	33.0×23.9	油彩
13	瑛九	1911～1960	だだっこ	1954(昭和29)	90.7×64.8	油彩
14	瑛九	1911～1960	籠目の青	1957(昭和32)	72.9×53.3	油彩
15	瑛九	1911～1960	空の目	1957(昭和32)	72.7×60.9	油彩
16	瑛九	1911～1960	黄色のかげ	1959(昭和34)	37.2×44.8	油彩
17	瑛九	1911～1960	作品	1959(昭和34)	64.7×79.3	油彩
18	瑛九	1911～1960	田園B	1959(昭和34)	130.7×194.0	油彩
19	瑛九	1911～1960	つばさ	1959(昭和34)	259.0×181.8	油彩
20	瑛九	1911～1960	散歩	1935(昭和10)頃	21.3×15.2	素描
21	瑛九	1911～1960	家と二人	1956(昭和31)	27.5×19.9	素描
22	瑛九	1911～1960	題不明	1957(昭和32)	40.5×29.6	水彩
23	瑛九	1911～1960	母	1953(昭和28)	29.1×23.8	エッチング
24	瑛九	1911～1960	みみづく	1953(昭和28)	23.6×17.8	エッチング

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
25	瑛九	1911～1960	ヴァイオリン	1952(昭和27)	18.0×12.0	エッチング
26	瑛九	1911～1960	海辺	1956(昭和31)	36.4×25.4	リトグラフ
27	瑛九	1911～1960	青の構成	1956(昭和31)	38.0×22.8	リトグラフ
28	瑛九	1911～1960	ともしび	1957(昭和32)	53.5×40.8	リトグラフ
29	瑛九	1911～1960	Visitors to a Ballet Performance	1950(昭和25)	45.7×55.8	フォト・デッサン
30	瑛九	1911～1960	作品	1951(昭和26)	27.8×22.7	フォト・デッサン
31	池田 満寿夫	1934～1997	瑛九の像	不明	31.9×22.2	素描
32	巖嘔	1931～	五つのフォルム	1958(昭和33)	23.7×14.9	リトグラフ